

創立147周年記念式典 校長式辞（令和3年11月18日 岡山市民会館）

菊薫る秋の佳き日に、創立147周年の記念式典を挙行できますことは、大変感慨深く、また、大きな喜びであります。新型コロナウイルス感染症対策のために参加いただけなかった来賓の本校同窓会入江泉理事長、PTA橋本勇人会長からの祝福の気持ちや管弦楽団の奏でるハーモニーがこの空間にあるような気がします。

さて、147年という歴史は全国的にも屈指の長さですが、本校の起源はさらに遡ることができます。寛文6年（1666年）、岡山藩主・池田光政公が岡山城西ノ丸、今まさに我々が式典を開催しているこの岡山市民会館のあたりに設けた藩校まで行き着くことができ、全国でも稀な、長い歴史をもつ学校と言えます。

その後、岡山の藩校を含め、旧来の藩校は政府の政策で一律に廃止されましたが、明治7年（1874年）6月、岡山城西ノ丸跡に、教員養成の目的で温知学校が開設されます。8月には教員志望ではない生徒も受け入れることになりました。本校はこの年をもって、創立の年としています。

明治12年（1879年）には、岡山中学校として独立、その後、明治29年（1896年）11月21日、岡山城城郭内に新校舎が完成し、移転しました。次の日曜日になりますが、11月21日を創立記念日とする所以はここにあります。大正10年（1921年）には、岡山県第一岡山中学校いわゆる「一中」となりました。

一方、昭和11年（1936年）には、岡山県第二岡山高等女学校いわゆる「二女」が新設されました。その後、この二校はそれぞれ、岡山県立岡山第一高等学校、岡山県立岡山第二女子高等学校となり、昭和24年（1949年）8月、両校は統合されて、岡山県立岡山朝日高等学校となりました。そして、昭和28年（1953年）、分散していた校舎が全て旧制第六高等学校跡地である、現校地に移転・統合され、現在に至る本校の姿が整いました。全国屈指の伝統校です。

同窓生は4万人を超え、同窓生の皆さんが、各界・各分野で広く活躍されていることは、本校の誇りとするところです。

「日本の現代物理学の父」と呼ばれ、日本で初めて核粒子加速装置を完成させ多くの弟子を育てた仁科芳雄博士、全日本空輸（現在のANA）の社長であり日中国交回復に尽力された岡崎嘉平太氏。最近の新聞報道でも、ノーベル文学賞候補として海外からも高い評価を受けられている作家小川洋子氏、世界的なロボットスーツの開発者である山海嘉之筑波大学教授

兼サイバーダイナミクス株式会社CEOなどが大きく取り上げられています。

現在、国や県において、高等学校普通科の在り方が検討されつつあり、また、本校は創立150周年が近づいています。私は、今年度、本校にかかわりのある有識者の皆さんにお願いして、改めて岡山朝日高校生徒に期待すること、岡山朝日高校での教育の在り方等について意見交換することを始めました。岡山の小学校・中学校、大学、教育行政、経済界の方々や入江同窓会理事長、大前京浜同窓会会長、先ほど紹介した小川洋子さん、山海嘉之さん等国際的な視野をもつ方々です。

ここでは、同窓生の方々との話の中で、強く印象に残った内容を紹介します。

朝日高校の生徒に期待することとしては、

- ・私たちがどうあるべきかを自発的に描いて行動していくこと。そして手探りしつつ未来開拓していくこと。
- ・チャレンジをする際、何かに対して失敗という発想を持たないこと。発見と捉えること。
- ・全員がリーダーシップ力を身に付け、実践すること。ここでのリーダーシップとは、課題解決は一部の人・リーダーに任せればよいのではなく、チームの一人一人が自ら考え行動し必要に応じて他人を支援するという意味)
- ・グローバル化に対応できる力や、価値観の異なる者と協働できる力を身に付けること。
- ・人間力（例えば、思いやり、向上心、チャレンジ精神等）を高めること。
- ・大学生活や仕事の中ではおごりやエリート意識は無残に打ち砕かれる。常に謙虚でいること。

いずれの内容にも、自主自律、自重互敬とのつながりがあります。

朝日高校での教育の在り方については、

- ・世界的なリーダーを育てる。（例えば、複数の言語を学ぶことができる機会、海外に関心を持つ機会、国際感覚を身に付ける機会、生きた英語を学ぶ機会等をつくる。）
- ・朝日高校のこと、岡山市のこと、岡山県のこと、日本のことについてしっかりと理解し、他国の人々に説明する機会をつくる。
- ・文理を越えて話をする場、サロンのような場をつくる。
- ・気がつかずに卒業してしまったけれどあんなに一生懸命何かを教えてくれるのは高校だから。大学の学問とはまた違うものがある。3年間、熱意をこめて英語の構文や数学の公式を教えてもらったことにもっと感謝すべきだった。

- ・受験指導だけでなく、大学での学問の入り口に触れさせるような授業。
- ・新しいものに対応しながらも、長い歴史と伝統で育まれた校風は大切に
する。

整理していくと、内容の多くが矛盾するものの組み合わせになっていることに気がきますが、双方とも大切なものであり、バランスを取りながら矛盾を生き抜くべきです。皆さん一人一人の挑戦を応援する学校でありたいと考えています。

一方、すべての方に共通していたのが、次のような思いです。

「岡山朝日高校の卒業生で良かったといつも思っている。朝日に何かこうあって欲しいという願いというのは、自分が通学していた時と同じような、ある種ののびやかさ。規律を守ることに神経を使いすぎてくたびれちゃうような学校ではなくて。自分の個性を伸ばせるようなのびやかな学校であってほしい。岡山朝日高校を自慢に思っています。」

このような卒業生の皆さんの母校に対する思いを受け止めながら、今日の日を一つの節目として、思いを新たに、朝日高校生徒としてどうあるべきか、大学や大学の向こう側の社会でどう生きるべきかを考え、未来を見つめ、我々教職員と共に努力を重ねていってください。

そして、すべての努力の基盤となるのが、「自分自身を大切にする」ことです。皆さん一人ひとりが今ここにいること自体が奇跡であり、かけがえのない大切なことです。欠点や失敗は誰にでもあり、誰にでもチャンスがあります。

皆さんの努力が、それぞれの人生を、一人一人の輝き方で輝かせることを期待し、式辞といたします。

(県立岡山朝日高等学校 校長 竹田義宣)

